情報委員会では、学校で毎年行われている行事、「ウインターキッズフェスティバル」について、調べてまとめました。

ウインターキッズフェスティバルは、10年以上前から続いていて、全校のみんなが楽しみにしているイベントです。その楽しいイベントまでには、お店を決めたり、出店するための計画を立てたり、大変な準備がたくさんあります。

この記事では、ウインターキッズフェスティバルまでの準備の様子について2つと、本番の様子について紹介します。

一つ目は、どんなお店がいいか、また、分担をどうするか、クラスで計画を立てることです。

クラスの話し合いでは、司会を中心に進めますが、「箱の中身当てゲームがいい！」「いやいや、的当てゲームでしょ！」など、なかなか意見がまとまらず、45分では足りなくなることが多いです。お店の内容を決め終わった後には、お店の名前を付けますが、これまた時間がかかる準備の一つです。

話し合いの最初は色々考えが出てきます。ですが、「これとこれくっつけたらどう？」という一言を最初に、他の人の案と合体させていってしまいます。十分良い名前もあるんですけどね…。そして、合体させていくうちに、店名がごちゃごちゃになっておかしくなってしまいます。そして、振り出しに戻って考え直すことになってしまいます。店名が決まったところで、いよいよ分担を決めていきます。立候補したり、譲り合ったりして決まっていきます。

※すべての学級がこうなるわけではありません。

二つ目は、出店するための準備をクラスで協力しながらすることです。

例えば、箱の中身を当てるゲームだったら、手を入れるためにダンボールを切ったりしています。箱を積み上げて得点を競うゲームでは、お菓子の空き箱を集めたりして、出店に向けて準備をしています。そして、ダンボールの板に画用紙を貼ったり、ペンで文字を書いたりして、看板を作っています。看板作りでは、低学年でも読みやすいように文字を大きくしたりと、様々な工夫をしています。

次に、学校で流す宣伝のCM動画を撮ります。それぞれの担当の人が「何をどこでやるか」、「ルール説明」を言っているところを動画に撮り、お昼の放送の時間に各クラスで流します。これらが終わると、クラスでリハーサルを行い、本番に備えています。

最後に、ウインターキッズフェスティバル本番の様子を紹介します。

それぞれの出店では、来てくれるお客さんのカードにスタンプを押し、ルール説明をします。ルール説明の時には低学年の人も来るので、わかりやすい言葉で説明しています。

次にお店の中についてです。お店の中では、お客さんが入ってくるので待つための椅子などを用意しています。さらに流れをスムーズにするためにタイマーを使って時間を計ったり、何回までなどを決めたりする工夫をしています。終わった道具は次に来るお客さんが気持ちよくスタートできるよう、すぐに片付けています。本番ではお店の中が一番忙しいです。

またお店を全校に知らせることもしています。自分のクラスのお店の内容についてのプラカードを持ち学校中を回って宣伝したり、お店の近くから声を出して呼びかけるなどの工夫をしています。

このように東中野山小学校の冬の行事であるウィンターキッズフェスティバルは、みんなが協力して成り立ち、みんなが楽しむことができます。